

RPSJ NETWORK

Railway Preservation Society of Japan

日本鉄道保存協会総会 2007



開館を待つ鉄道博物館（さいたま市大宮区） 撮影・山下徹

2007（平成 19）年 10 月 11 日-12 日

東京都千代田区麹町 弘済会館

は じ め に

日本鉄道保存協会が設立されて、今年で 17 年となりました。

この間、微力ながらも多くの皆さまのご支援とご協力を頂きながら活動をつづけてまいりました。現在、加盟団体は 30 近くに達し、より一層の広がりを見せて来ていることは喜びにたえません。

最近では、歴史的車両の動態保存や静態保存が全国各地で推進され、広く一般の皆さんの関心を集めつつあります。また、歴史的車両だけでなく、駅舎・橋梁・隧道などの鉄道遺産を地域活性化の核として保存・活用する事例も多く見られるようになってきました。これら鉄道遺産は我が国の近代化遺産として誇るべきものであり、私たちの大切な宝物として後世に伝え残していきたいものです。

一方で、私たちの活動は大きな困難にも直面しています。多くの保存団体に共通する財政難の問題は言うまでもありませんが、そのほかにも最近の傾向として、意気込み高く始めた保存事業が時の経過とともに勢いを失う事例や、市町村の合併に伴って管理運営の困難を来している事例も見られます。これらの難問をどのようにして克服していくか、これからの保存運動の試練と言えましょう。

この総会は、正会員たる加盟団体と賛助会員が一同に会し、鉄道保存運動に関心を持たれる多くの方々をオブザーバーとしてお招きして、お互いの経験を語り知識と意見を交換する貴重な機会です。参加者の皆さんの活発な発言を通じて、全員が明日の保存運動のための知恵と勇気を見いだせる場にしたいと思います。

2007 年 10 月

日本鉄道保存協会代表幹事団体
(財) 交通文化振興財団 菅 建彦

日本鉄道保存協会 平成 19 年度総会

[日 時] 平成 19 年 10 月 11 日 (木) 1 時から 18 時まで
[開催地] 東京都千代田区麹町 弘済会館「蘭」の間

総合司会 名取 紀之

1. 黙祷 (故松澤顧問追悼)

2. 挨拶

代表幹事団体 交通文化振興財団理事長

菅 建彦

. 出席者紹介及び加盟団体近況報告

. 議事

1 議長選任

2 退会の報告 ウェスタン村

平成 18 年度事業報告

資料 1

- . 総会の開催 (平成 18 年 10 月 19 日 長野県上松町)
- . 歴史的鉄道車両の保存活用についてのコンサルティング
- . マスコミなどを通じての広報活動
- . 会員及び賛助会員の拡充
- . その他

平成 18 年度収支報告

資料 2

5 平成 18 年度会計監査報告

資料

平成 19 年度事業計画 (案)

資料

- . 総会の開催 (平成 19 年 10 月 11 日 東京)
- . 歴史的鉄道車両の保存活用についてのコンサルティング
- . 会報の発行
- . マスコミなどを通じての広報活動
- . 一般向け図書などの刊行
- . 会員及び賛助会員の拡充
- . その他

平成 19 年度収支予算 (案)

資料 5

8 次回開催地について

9 会計幹事団体の交代と顧問の指名について

5. 講演と討論

基調講演 「文化財としての鉄道遺産」
文化庁文化財部主任文化財調査官 堀 勇良（ほりたけよし）氏

（以下敬称略）

事例報告 1 「碓氷峠鉄道文化むらの歩んできた道」
碓氷峠鉄道文化むら館長 高橋 寛

事例報告 2 「新鉄道博物館の概要について」
東日本鉄道文化財団事業部長 石川 晃

討論 「鉄道遺産の保存活用と地域活性化」

パネリスト

小樽市総合博物館学芸員	佐藤 卓司
碓氷峠鉄道文化むら館長	高橋 寛
大井川鐵道運輸部次長	萬豆 明夫
加悦鐵道保存会理事	篠崎 隆

コメンテータ 顧問（産業考古学会）	堤 一郎
コーディネータ 顧問（地域遺産プロデューサ）	米山 淳一

総括 顧問（東京学芸大学名誉教授）	青木 栄一
顧問（英文学者）	小池 滋

懇親会

18 時 0 分から、弘済会館「椿」の間

見学会（鉄道博物館）

10 月 12 日 10 時

大宮駅埼玉新都市交通ニューシャトル改札口（西口）に集合

なるべく全員揃って入館するために、時間を厳守してくださるようお願いします。
入館後記念撮影をして、その後は各自が自由に見学し、そのまま解散することにします。

日本鉄道保存協会2007年度総会出席者名簿・その1

所属等	役職等	氏名	総会	講演	懇親	見学
顧問	東京学芸大学名誉教授	青木 栄一	○	○	○	○
顧問	英文学者	小池 滋	○	○	○	○
顧問	産業考古学会	堤 一郎	○	○	○	○
顧問	レール・マガジン編集長	名取 紀之	○	○	○	○
顧問	地域遺産プロデューサー	米山 淳一	○	○	○	○
顧問小計			5	5	5	5
遠軽町(旧丸瀬布町)	(欠席)					
三笠市	(欠席)					
北海道旅客鉄道(JR北海道)	(欠席)					
ほべつ銀河鉄道の里づくり委員会	(欠席)					
三菱大夕張鉄道保存会	(欠席)					
磐越西線SL運行推進協議会	(欠席)					
真岡線SL運行協議会	(欠席)					
碓氷峠鉄道文化むら(碓氷峠交流記念財団)	館長	高橋 寛	○	○	○	○
碓氷峠鉄道文化むら(碓氷峠交流記念財団)	元運行係長	土屋 幸正	○	○	○	○
日本工業大学	工業技術博物館館長	松野 建一	○	○	○	
日本工業大学	講師・工業技術博物館学芸員	丹治 明	○	○	○	○
西武鉄道	(欠席)					
東日本鉄道文化財団	事業部長	石川 晃	○	○	○	○
東武博物館(財団法人東武鉄道共助会)	館長	花上 嘉成	○	○	○	○
交通文化振興財団	理事長	菅 建彦	○	○	○	○
日本ナショナルトラスト	事業課	池之上 真一	○	○	○	○
上松町	商工観光課長	横井 実	○	○		
虹の郷(財団法人伊豆市振興公社)	(欠席)					
大井川鐵道	運輸部次長	萬豆 明夫	○	○	○	○
東海旅客鉄道(JR東海)	車両部管理課課長	伊藤 将利	○	○	○	○
博物館明治村(財団法人明治村)	(欠席)					
西日本旅客鉄道(JR西日本)	広報室	奥山 喜文	○	○	○	
加悦SL広場(加悦興産(株))	管理部課長	今田 哲男	○	○	○	○
加悦鐵道保存会	理事	篠崎 隆	○	○	○	○
加悦鐵道保存会		中井 喜宏	○	○	○	○
加悦鐵道保存会		荒川 泰昌	○	○	○	○
ふるさと鉄道保存協会	理事長	手嶋 康人	○	○	○	○
ふるさと鉄道保存協会	貨物鉄道博物館理事	北川 潤	○	○	○	○
ふるさと鉄道保存協会	鉄道郵便WG	金井 利喜	○	○	○	○
中芸地区森林鉄道遺産を保存活用する会	(高知県安芸郡馬路村)(欠席)					
山口線SL運行対策協議会	(欠席)					
JR九州	広報室	兼子 慎一郎	○	○	○	○
屋久町	(欠席)					
加盟団体小計			20	20	19	17

日本鉄道保存協会2007年度総会出席者名簿・その2

所属等	役職等	氏名	総会	講演	懇親	見学
賛助会員	ネコパブリッシング	名取 紀之	(顧問欄に記載)			
賛助会員	鉄道ジャーナル社	三浦 衛	○	○	○	
賛助会員	日本鉄道写真作家協会	猪井 貴志	○	○	○	
賛助会員	日本鉄道写真作家協会	山崎 友也	○	○	○	
賛助会員	北陸重機工業	霜鳥 勝徳	○	○		
賛助会員	JTBパブリッシング	河合 桃子	○	○	○	○
賛助会員	けいてつ協会	岡本 憲之	○	○	○	○
賛助会員	有限会社鉄道フォーラム	(欠席)				
賛助会員	レイルウェイ・ライター	種村 直樹	○	○	○	○
賛助会員	赤門鉄道クラブ	岡田 久雄	○	○	○	○
賛助会員	交通道徳協会「明るい旅」編集長	水野 弥彦	○	○	○	
賛助会員小計			9	9	8	4
オブザーバー	小樽市総合博物館	佐藤 卓司	○	○	○	○
オブザーバー	陸別町	佐々木 敏治	○	○	○	○
オブザーバー	(有)銀河の森	山本 周二		○	○	○
オブザーバー	NPO 語り継ぐ青函連絡船の会	白井 朝子	○	○	○	
オブザーバー	NPO 語り継ぐ青函連絡船の会	大熊 昭	○	○	○	
オブザーバー	津軽鉄道(株)	白鳥 泰	○	○	○	○
オブザーバー	南部縦貫レールバス愛好会	小川 清之	○	○	○	○
オブザーバー	南部縦貫レールバス愛好会	野平 茂雄	○	○	○	○
オブザーバー	よみがえれボールドウィン実行委員会	木村 一博	○	○	○	○
オブザーバー	よみがえれボールドウィン実行委員会	丸山 龍一	○	○	○	○
オブザーバー	豊島園社長(西武鉄道)	西尾 恵介	○	○	○	○
オブザーバー	日本ナショナルトラスト会員	佐々木 雅子	○	○		○
オブザーバー	日本ナショナルトラスト会員	倉繁 聡	○	○	○	○
オブザーバー	日本ナショナルトラスト会員	岩野 弘一	○	○	○	○
オブザーバー	日本ナショナルトラスト会員	長野 芳光	○	○	○	○
オブザーバー	レールウェイ・ライター	白川 淳	○	○	○	○
オブザーバー	鉄研三田会	高井 薫平		○	○	○
オブザーバー	鉄研三田会	田尻 弘行	○	○	○	○
オブザーバー	FEDECRAIL / TINHAT	小田 恭一	○	○	○	○
オブザーバー	りんてつ倶楽部	高橋 滋	○	○	○	○
オブザーバー	JR四国	加藤 圭哉	○	○	○	○
オブザーバー	若桜町公民館	盛田 義仁	○	○	○	
オブザーバー	片上鉄道保存会	森岡 誠治	○	○	○	○
オブザーバー小計			21	2	22	20
事務局	交通文化振興財団	五十嵐 健一	○	○	○	
事務局	交通文化振興財団	吉益 由美子	○	○	○	
事務局	交通文化振興財団	相澤 光紀	○	○	○	
事務局小計						
総計			58	0	5	

日本鉄道保存協会規約

(名称)

第1条 この会の名称は、日本鉄道保存協会（以下「協会」という）とする。

(目的)

第2条 協会は、歴史的鉄道車両を動態及び静態保存している団体が集い、相互に情報を交換し、将来にわたる保存・活用を推進することを目的とする。

(会員)

第3条 協会は、正会員たる加盟団体および賛助会員をもって構成する。

(会議)

第4条

1. 協会の会議は、総会および幹事会とする。
2. 総会は年1回開催するものとし、必要のつど臨時に開催することができる。

(役員団体)

第5条

1. 協会に代表幹事団体1団体、幹事団体2団体、会計監事団体2団体を置く。
2. 代表幹事団体、幹事団体、会計監事団体は、加盟団体の互選により選出する。
3. 代表幹事団体は、協会を代表し会務を総理する。
幹事団体は、総会その他会務の執行に関する重要事項を協議する。
会計監事団体は、協会の会計を監査する。
4. 役員団体の任期は2年とし、重任を妨げない。

(顧問)

第6条 協会に顧問を置く。顧問は、総会において代表幹事団体が推薦し、任期は2年とし、重任を妨げない。

(事務局)

第7条 協会の事務局は、代表幹事団体に置く。

(会費)

第8条

1. 協会の経費は、正会員、賛助会員が拠出する会費、および寄付金により賄う。

2. 年会費の額は、正会員12,000円、賛助会員12,000円（1口）とする。

3. 会計年度は、4月1日から翌年3月31日までとする。

（規約の改正）

第9条 この規約の改正は、総会の議決によらなければならない。

付則 この規則は、平成3年4月1日から施行する。

総会の運営方法

原則として加盟団体が輪番制とし、開催に際しては、代表幹事団体および幹事団体ならびに開催場所の団体が協同して行う。

平成 3年 4月 1日施行

平成 6年 8月10日改正

平成16年 9月10日改正

日本鉄道保存協会加盟団体名簿 1

2007 年 10 月現在

- 01 遠軽町（旧丸瀬布町） 町長 枝松泰彦
099 020 北海道紋別郡遠軽町丸瀬布中町 115 2 遠軽町役場丸瀬布総合支所
産業課観光係 係長 小山信芳
T 00158 2211 F 0158 2128
- 02 三笠市 市長 小林和男
0 8 2192 三笠市幸町 2 三笠市役所
経済建設部商工観光課商工観光係 主事 力弓晃継
T 012 2 99 F 012 2 880
- 0 北海道旅客鉄道株式会社 代表取締役社長 中島 尚俊
0 0 8 札幌市中央区北 11 条西 15 T 011 00 5 85 F 011 00 5 8
鉄道事業本部運輸部管理課長 茂木高一 運輸車両課グループリーダー 黒田宜元
- 0 ほべつ銀河鉄道の里づくり委員会 会長 加藤 勉
05 0 北海道勇払郡穂別町富内 T 1 01 5 21 F 01 5 21
事務局長 服部啓三
- 05 三菱大夕張鉄道保存会 会長 奥山道紀
0 9 0855 江別市大麻宮町 502 T 011 8 8 事務局 今井一郎
- 0 磐越西線 L 運行推進協議会 会長 小野隆市
9 5 081 福島県会津若松市南千石町 5
T 1 02 2 2 1212 F 02 2 2 120 総合事務センター長 山田直樹
- 0 真岡線 L 運行協議会 会長 福田武隼
21 05 栃木県真岡市荒町 520
T 1 0285 82 9151 F 0285 82 9152
総務課長 板口敏一 総務課ふるさと振興係 中山文行
- 08 碓氷峠交流記念財団「碓氷峠鉄道文化むら」 理事長 白石敏行
9 0 01 群馬県安中市松井田町横川 0 11
T 1 02 80 1 F 02 80 111 館長 高橋 寛
- 09 日本工業大学 学長 柳澤 章
5 8501 埼玉県埼玉郡宮代町学園台 1 T 0 80 111
工業技術博物館 T 0 80 5 5 T F 0 80 5 0
館長 松野建一 講師・学芸員 丹治 明

日本鉄道保存協会加盟団体名簿 2

2007 年 10 月現在

- 10 西武鉄道株式会社 代表取締役社長 後藤高志
59 8520 所沢市くすのき台 1 11 1 T 1 0 292 2285 F 0 292 22 9
車両部部長付き 平岡清次
- 11 財団法人東日本鉄道文化財団 理事長 大塚陸毅
151 85 8 渋谷区代々木 2 2 2 東日本本社ビル 11 階
T 1 0 5 0 2 F 0 5 0 2 企画部課長 高橋政弘
- 12 東武博物館（財団法人東武鉄道共助会） 館長 花上嘉成
1 1 00 2 東京都墨田区東向島 28 1
T 0 1 8811 F 0 1 881 事務局 田中隆
- 1 財団法人交通文化振興財団 理事長 菅建彦
101 00 1 東京都千代田区神田須田町 1 25
T 0 251 8 81 F 0 251 8 89 学芸員 五十嵐健一
- 1 財団法人日本ナショナルトラスト 会長 杉浦喬也
11 002 東京都文京区西片 2 18 1
T 1 0 0 1110 F 0 818 11 5 事業課 池之上真一
- 15 上松町 町長 田中正男
99 5 0 長野県木曾郡上松町駅前通り 2 1 上松町役場
T 02 52 2001 F 02 52 10 8 産業観光課長 横井 実
- 1 虹の郷（財団法人伊豆市振興公社） 理事長 西島滯徳
10 2 1 静岡県伊豆市修善寺 2 9
T 1 0558 2 222 F 0558 2 1 園内交通課 西島史年
- 1 大井川織道株式会社 代表取締役社長 榊原昌夫
28 850 島田市金谷 1112 2 T 05 5 11 F 05 5 115
運輸部次長 萬豆明夫
- 18 東海旅客鉄道株式会社 代表取締役社長 松本正之
5 8520 名古屋市中村区名駅 1 T 1 052 5 2 1 F 052 5 2 2
車両部管理課長 伊藤将利 課長代理 神田英樹
- 19 博物館明治村（財団法人明治村） 館長 飯田喜四郎
8 0000 愛知県犬山市宇内山 1 番地 T 05 8 0 1 F 05 8 0 58
リーダー 渡邊忠幸

日本鉄道保存協会加盟団体名簿 3

2007 年 10 月現在

- 20 西日本旅客鉄道株式会社 代表取締役社長 山崎正夫
5 0 8 1 大阪府大阪市北区芝田 2 2 T 0 5 0 2 F 0 5 0 2
広報室 奥山喜文
- 21 加悦 L 広場（カヤ興産株式会社） 代表取締役 須藤洋右
29 2 22 京都府与謝郡加悦町滝 9 1 2 T 0 2 2 18 F 0 2 0080
管理部 部長 今田哲男
- 22 加悦鐵道保存会 理事長 森本寿
29 2 0 京都府与謝郡与謝野町字滝 9 1 2 加悦 L 広場内
T 0 25 20 811（森本方）
加悦町観光協会事務局 篠崎隆
- 2 ふるさと鉄道保存協会 理事長 手嶋康人
福岡市博多区博多駅 11 12 （株）ワンマイル内
T 080 12 1 F 092 1 5088
- 2 馬路村 村長 上治堂司
81 202 高知県安芸郡馬路村魚梁瀬 馬路村役場魚梁瀬支所
やなせ森林鉄道運営委員会 T 088 2211 F 088 2208
魚梁瀬支所長 清岡宏敏
- 25 山口線 L 運行対策協議会 会長 和田卓也
5 8501 山口市滝町 1 1 山口県商工労働郭観光交流課
T 08 9 1 0 F 08 9 1 9 観光物産振興班主事 藤井厚
- 2 九州旅客鉄道株式会社 代表取締役社長 石原進
812 85 福岡市博多区博多駅前 25 21 T 092 25 1 F 092 898
総務部広報課室長 関信介
- 28 屋久町 町長 日高十七郎
891 0 鹿児島県熊毛郡屋久町尾之間 15 T 099 2111 F 099 211
企画調整課地域活性化対策係長 泊竜二

団体名	遠軽町	連絡先 〒099-0203 北海道紋別郡遠軽町丸瀬布中町 遠軽町丸瀬布総合支所産業課
-----	-----	---

<森林鉄道雨宮21号>



雨宮号は昭和3年、東京の雨宮製作所で製造された機関車で3台が部品のまま輸送され丸瀬布で組み立てられました。その後、雨宮製作所では機関車の製造を中止したため、道内に導入された雨宮号はこの3台だけとなっています。

機関車には道庁が導入した順に番号が付けられ、丸瀬布の雨宮号は18・19・20号となりました。

雨宮19・20号は昭和3年9月に、18号は昭和4年5月に完成し、19号は昭和4年5月6日、20号は同年6月16日、18号は昭和5年6月11日に輸送が開始されましたが、18号は13日移動しただけで配置変えとなりました。

しかし、経済性や山火事防止の観点から、丸瀬布にも昭和26年に2台のディーゼル機関車が導入され、蒸気機関車は昭和33年12月末日までに配車とすることになりました。

ちなみに、機関車の番号は昭和24年度から営林局ごとの番号に改められ、雨宮19号は21号となりました。

この間、雨宮21号は昭和32年に危うくスクラップを免れ、昭和36年5月13日「サヨナラ運転」と格納式が行われ、営林署で保存の道が取られました。

その後、雨宮21号は昭和51年に営林局から町へ譲渡され札幌で復元整備し昭和54年5月15日いこいの森に新築された機関庫に格納され、翌16日、22年ぶりに「ぽーっ」という汽笛を響かせ試運転が行われました。その間に客車や貨車を購入し、昭和56年には8の字の一周軌道も完成し、昭和57年5月1日より「森林鉄道の走る緑と溪谷のマチ」として動態保存されています。

<近況報告>

<お月見列車>

秋の集客を計るため9月22・23・24日の3日間、午後7時から2便運行

1. 運行日	平成19年4月28日から10月21日までの土・日・祝日 ※ゴールデンウィーク・夏休み期間は毎日運行
2. 運行時間	午前10時から30分毎に午後4時30分まで（昼1時間休み）
3. 運行区間	遠軽町丸瀬布上武利 森林公園いこいの森園内一周約2km
4. 乗車料金	大人 500円 小人 250円

◆団体名 三笠市（市長 小林 和男）

北海道三笠市幸町2番地 三笠市役所経済建設部商工観光課商工観光係

電話番号 01267-2-3997 F A X 01267-2-7880

Eメール kankou@city.mikasa.hokkaido.jp

ホームページ <http://www.city.mikasa.hokkaido.jp>

◆北海道の鉄道開拓時代の貴重な資料を展示

館内には北海道鉄道開拓時代から旧国鉄時代に活用されていた貴重な鉄道関連品を展示しています。

◆幌内鉄道の歴史を鑑賞できるミニシアター

幌内で発見された良質の石炭を運搬するために北海道で最初に開通した幌内線。幌内線は昭和62年に廃線となりましたが、幌内線の歴史を映像で紹介する「さらば栄光の幌内線」、「幌内線のあゆみ」、「幌内線最後の日」、「在りし日の幌内線」を鑑賞することができます。

◆HOゲージの鉄道模型を体験シミュレーション

カメラが搭載された模型もあり、モニターを見ながら操作は、実際に電車を運転しているような体験ができます。

◆本物のSLを運転体験

テツゲン室蘭工場などで活躍した本物の蒸気機関車 S-304 号の運転体験ができます。村内の幌内鉄道 350m を 1 往復。3 分足らずのわずかな時間ですが、気分は SL 機関士そのものです。なかには 50 回以上も運転しているベテラン機関士もいます。

◆プラレールコーナーを設置

新たな取組みとして小さな子ども達に人気のプラレールコーナーを設置した。

10 m²弱のコーナーに S L や新幹線などのプラレールを走らせています。

土・日曜日、祝日のみの運行であります、小さな子ども連れのお客様で賑わいを見せています。



プラレールの様子

団 体 名	北海道旅客鉄道株式会社	鉄道事業本部 運輸部 運用車両課 〒060-8644 北海道札幌市中央区北 11 条西 15 丁目 TEL 011-700-5785 FAX 011-700-5786
-------	-------------	--

「SL夕張応援号」走る！

平成 11 年より C11 形蒸気機関車 2 両(C11-171、C11-207)を復元し、一年を通じて北海道の自然や文化・歴史を堪能して頂ける各種観光列車、また地域と連携したイベント列車として運行しております。

平成 19 年度は、財政再建団体となった夕張市への支援の一環として、9/8～9 の 2 日間、石勝線・新夕張～夕張間において「SL 夕張応援号 (C11-207)」の運行を行いました。当日は好天に恵まれ、その雄姿に地元の人達や全国各地から集まった多くの鉄道ファンから大きな歓声が上がっていました。

厳冬期など過酷な気象条件の中で SL を安全に運行させるため、細心の注意を払って運転・メンテナンスを行っております。今後も多くの皆様に北海道の雄大な自然を満喫して頂ける運行を継続して参ります。



夕張～新夕張間を走る「SL 夕張応援号」

平成 19 年度 SL 列車運転計画

- SL 函館大沼号 函館本線（函館～森）
4/28～5/6、7/14～8/19 の土、日、祝
 - SL 富良野・美瑛/ロコ号 富良野線（旭川～富良野）
6/2～3
 - SL 夕張応援号 石勝線（夕張～新夕張）
9/8～9
 - SL すずらん号 留萌線（深川～増毛）
9/15～17
 - SL ニセコ号 函館本線（札幌～蘭越）
9/22～11/4 の土、日、祝
 - SL クリスマス in 小樽号 函館本線（札幌～小樽）
12/7～23 の金、土、日、12/24・25
 - SL 冬の湿原号 釧網本線（釧路～標茶）
1/19、20、26～3/9、15～23
- ※ 運転日は変更となる場合があります

団体名	ほべつ銀河鉄道の 里づくり委員会	〒054-0364 北海道勇払郡穂別町字富内 高橋方 Tel.01454-6-6212
〔委員会の主な活動〕 旧駅舎・客車2両・鉄路延長1キロメートル・宮沢賢治が設計した「涙ぐむ眼」花壇・公園 10,000 m²などの保存、維持管理が主な活動となっている。 ① 町おこしの経緯 昭和 61 年の廃線によって地域の過疎化が一層深刻になった。歴史を思わせる駅舎・線路・構内をなんとか保存することにより町おこしができないか、地域の数人が組織（富内再開発協議会）を立ち上げた。幸いにして横山村長が宮沢賢治の思想に感銘し、理想郷づくりに生命をかけて取り組んでいた。富内地域には、賢治観音像や鉄道もあり、条件が整っていたことから、銀河鉄道の里づくりと称して町おこしの活動がはじまった。 ② 今までの活動経過・その他 ・ 宮沢賢治設計の涙ぐむ眼花壇の造成によって地域住民参加（地域・学校・精薄授産施設・老人クラブ）による活動が始まる。年2回植栽120名参加 ・ 会員が中心となって駅舎周辺の維持管理（線路の草刈り、駅舎の掃除、客車の清掃など）をおこなう。 ・ 毎年9月14日に開催するイベント（銀河鉄道の夕べ）。全国から鉄道愛好家が集まる。 ・ 町内外の各種イベントに積極的に参加し、交流を深める。 ・ 維持管理費については、町より若干の補助金の交付を受けている。 ・ 委員会のメンバーは、富内地域の4自治会の役員や主だった団体の関係者等で構成されている。 ③ 公園化によっての周辺整備が2000年に完成 廃線後、従来の形のまま維持管理を進めてきたが、毎年訪れる人たちが増え、また周辺の整備も遅れ、建物の老朽化も進んだことから町に対して、整備改築の要請をしていた。財政的に厳しい事情からなかなか予算化されずに経過していたが、平成12年度に国・道・町の支援を受け、立派な公園が完成した。地域住民が参加し、手づくりによる公園ということで、全国から注目されている。		 「涙ぐむ眼」 ④ 2001 年よみがえれ汽笛キャンペーンの展開 廃線 15 周年目の記念行事として、2001 年 9 月 14 日にぼっちゃん列車を走らせた。 また、来年2006年は廃線20周年となるのでイベントの開催を計画している。  「坊ちゃん列車」

平成19年度 磐越西線 SL 運行推進協議会事業報告

1 共同キャンペーン事業

開催日・場 所	名 称	参加者	内 容
19年4月28日(土) 喜多方駅	SL ばんえつ物語号 到着イベント	名	・振る舞い(地酒)・観光パンフレット配布 ・喜多方ラーメンプレゼント・桐下駄っふ踊り披露
4月28日(土) 会津若松駅	SL ばんえつ物語号 到着イベント	名	・振る舞い(こづゆ・日本酒・ジュース) ・記念品配布・いなわしろ天鏡太鼓の披露
4月28日(土) 会津若松駅	SL ばんえつ物語号 出発セレモニー	名	・テープカット ・記念品配布・いなわしろ天鏡太鼓の披露
5月19日(土) 会津若松駅	SL 会津只見新緑号 出発セレモニー	名	・会津柳津福太鼓演奏・会津坂下駅・会津柳津駅・会津宮下駅・会津川口駅・只見駅で歓迎イベント
5月26日(土) 会津若松駅	SL 磐梯会津路号 出発セレモニー	名	・テープカット・振る舞い(地酒・ジュース) ・ノベルティー配布・鶴ヶ城太鼓の披露
5月27日(日) 郡山駅	SL 郡山会津路号 出発セレモニー	名	・豆だるまプレゼント・振る舞い(地元の菓子・酒) ・観光パンフレット配布
5月27日(日) 猪苗代駅	SL 郡山会津路号 到着イベント	名	・振る舞い(酒・そば茶・菓子) ・観光パンフレット配布・天鏡太鼓の演奏
5月27日(日) 会津若松駅	SL 郡山会津路号 到着イベント	名	・振る舞い(地酒・ジュース) ・ノベルティー配布・鶴ヶ城太鼓の披露
5月27日(日) 七日町駅	SL 郡山会津路号 到着イベント	名	・白虎隊・女白虎隊の演舞 ・浪漫フェスタPR
6月24日(日) 会津若松駅	SL 郡山会津路号 到着イベント	名	・パンフレット配布 ・おしぼり
7月29日(日) 会津若松駅	SL 郡山会津路号 到着イベント	名	・パンフレット配布 ・おしぼり
8月26日(日) 会津若松駅	SL 郡山会津路号 到着イベント	名	・パンフレット配布 ・おしぼり
合 計	回	名	

2 沿線ガイドパンフレット作成及び広報事業

作成日等	部数等	内 容	配 布 先

3 諸会議

開催日・場所	会 議 名	内 容	出席者数
19年4月25日(水) 郡山商工会議所・当所	会計監査	平成18年度会計監査	3名
5月17日(木) 阿賀町役場 会議室	推進協議会・事務担当者会議	①総会の日程等について ②総会に上程する議案について ③事業推進について その他	15名
6月14日(木) 会津若松商工会所 会議室	総会	①平成18年度事業報告書並びに収支決算について ②平成19年度事業計画(案)並びに収支予算(案)について その他	21名

4 その他

SL 会津只見号運転の火入れ式(5月14日 JR 会津若松駅構内)

団体名	真岡線 S L 運行協議会	〒321-4305 栃木県真岡市荒町 5 2 0 3 番地 TEL 0285(82)9151 FAX 0285(82)9152
-----	---------------	---



▲「SLガイド体験」
ちびっこ車掌たち

「SLもおか」2007冬・運行日程

【運行日】	11月 3日・4日・10日・11日・17日・18日 23日・24日・25日 12月 1日・2日・8日・9日・15日・16日 22日・23日・24日 1月 5日・6日・12日・13日・14日・19日 20日・26日・27日
【運行区間】	真岡鐵道 下館駅～茂木駅（41.9キロ）
【運行時間】	下り 下館駅10:37発～茂木駅12:02着 上り 茂木駅14:28発～下館駅15:57着
【運行車両】	SL C12形66号 C11形325号 PC オハ2両、オハフ1両 DL DE10 1535 1両

〔近況報告〕

◆真岡線に乗ってSLグッズをゲットしよう！ 「コットンウェイチャレンジカード」

・真岡鐵道では今年度より新事業、「コットンウェイチャレンジカード」の発行を開始しました。

このカードは真岡線の乗車キャンペーンとして、作られたものです。このカードを持って真岡線のSLまたは普通列車に乗車するとSLキャラクター「シュッポくん・ポッポちゃん」のシールが貰え、このシールを10枚集めてカードに貼るとSLチョコロQを初めとしたSLグッズと交換できるシステムです。

このカードには、他にも真岡線を走る車両の紹介や真岡線の列車の乗り方なども書かれていて、真岡線を楽しく学ぶことができます。



◆真岡鐵道の「夏休みSLイベント」大盛況！

・今年も真岡鐵道では子供向けの夏休みイベントを開催しました。

特に人気の高いイベントは「SLガイド体験」と「夏休みSL教室」です。「SLガイド体験」は小学生がSL車掌さんのお手伝いとして、車内アナウンスや乗車記念証の日付スタンプを押したりするイベントで、毎年、7月に予約開始をするとすぐ定員に達してしまう人気のイベントです。「夏休みSL教室」は真岡線のSLを愛するボランティア団体「もおかSL倶楽部」の方々が講師やスタッフになって、子どもたちにわかりやすくSLの各部の名称や動く仕組みを教えたり、真岡鐵道の職員によるSL運転席の見学などができるイベントで、今年は約300人の親子連れで賑わいました。

他にも、世界に誇るモータースポーツ施設「ツインリンクもてぎ」とSLのタイアップイベント「こども冒険列車」やSLが花火をバックに発進する「SL夜行列車」などのイベントを開催して観光客や地元の方々と夏休みを満喫しました。



◆SLもおか「秋の重連」運転決定！

・秋の真岡線沿線のイベント「真岡コットンまつり」の開催を祝し真岡鐵道2台のSLが共演します。運行日は平成19年9月30日。約1ヶ月にわたって開催する真岡コットンまつりオープニングの日です。

団体名	財団法人 碓氷峠交流記念財団 碓氷峠鉄道文化むら	〒379-0301 群馬県安中市松井田町横川407-16 TEL 027-380-4163 FAX 027-380-4111 URL: http://www.usuitouge.com/bunkamura/
-----	-----------------------------	--

碓氷峠鉄道文化むらは群馬県の南西部に位置し、碓氷峠をはさんで長野県の軽井沢町と接しています。峠のシェルパEF63形機関車の基地であった旧横川機関区の跡地で、東京ドーム3.5個分のスペースがあります。

峠の鉄道の歴史は古く、明治の初めに東京～京都間を信越本線経由で結ぶと決定されましたが、明治19年にこの峠が難関のため東海道本線経由に変更された経緯のある所です。しかし、明治26年には日本で初のアプト式鉄道の採用で開通しましたが、11.2kmで標高差553mもあり、トンネル区間が多いため当時蒸気機関車の煙害防止のため、明治45年にこれまた日本初の電化区間となりました。

日本の鉄道技術の発展はこの峠から生まれたと言っても過言ではない線区でした。

時移り平成9年、長野オリンピックの開催を控えて、同年10月1日の長野新幹線の開業と同時に併行在来線として104年の歴史にピリオドを打ちました。旧機関区周辺は鉄道の街として発展してきましたが、廃止に伴う過疎化防止と地域経済の核として、群馬県・松井田町・JR東日本の協力により平成11年4月にオープンし、まもなく10年を迎えます。

営業時間 3月～11月 9:00～17:00 (入園は閉園30分前までです)
12月～2月 9:00～16:30

●園内アトラクション

★トロッコ列車★

旧信越本線横川～軽井沢間の線路を一部利用し、碓氷峠鉄道文化むら～峠の湯間(約2.6km)をトロッコ列車が運行しています。先頭車はオープン型客車で天望スペースのあるタイプです。2両目は冷暖房完備の客車です。

運行日 3月～11月の土・日・祝・8月の毎日
運行時間 ぶんかむら駅発 10:00 11:00 13:00 14:00 15:00
とうげのゆ駅発 10:30 11:30 13:30 14:30 15:30
乗車時間 片道約20分 (とうげのゆ駅に約10分間停車し折り返し運転)
乗車料金 中学生以上 片道500円 往復900円 (その他入園料金とセットの割引券や峠の湯入館も含め)
小学生 片道300円 往復500円 (めたセット券もあります)

★EF63形電気機関車運転体験★

世界で唯一EF63形電気機関車を運転できます! 重量108tの本物の機関車をあなたの手で動かしてみませんか? 1日講習を受け修了試験に合格すれば、翌日から運転が可能になります。運転区間は園内の片道約400mの往復です。また、回数を重ね所定の運転方法を体験すると、連結体験・重連推進運転もできるようになります。

講習日 毎月第1・第3土曜日(先着15名・各回3日前までに要予約)
対象年齢 18歳以上で普通自動車免許取得(または可能な方)
受講料金 30,000円
運転料金 回数・運転方法により3,000円～8,000円
運転体験日 開園日の毎日(第2・第4土曜日は重連推進資格取得者のみ予約可能)

★SLあぶとくん★(園内を1周)

運行日 開園日の毎日(DL運行の場合もあります)
運行時間 9:30～16:30で30分間隔(12:00～13:30を除く)
乗車時間 約7分
乗車料金 中学生以上 400円 4歳～小学生 200円
(小学生未満のお子様は保護者の同乗が必要です)

★ミニSL★(屋外展示車両の周りを1周)

運行日 開園日の毎日(荒天時運休)
運行時間 9:30～16:30で随時(12:00～13:30を除く)
乗車時間 約3分
乗車料金 中学生以上 200円 4歳～小学生 100円
(小学生未満のお子様は保護者の同乗が必要です)

★EF63・あさま号シミュレータ★

EF63形電気機関車とあさま号を本物の運転台で楽しむシミュレータです。EF63は横川～軽井沢間を、あさま号は上尾～熊谷間の運転です。

利用時間 開園時間内(1回10分前後です)
利用料金 1回1,000円

EF63シミュレータ

あさま号シミュレータ

団体名

**日本工業大学
工業技術博物館**

345-8501

埼玉県 南埼玉郡 宮代町 学園台 4-1

Tel. 0480-34-4111 (大学代表)

Fax. 0480-33-7570 (博物館直通)



写真1 製造されて116年、疾走する2109号蒸気機関車の勇姿

2007年の運転について

2109号蒸気機関車を、原則として8月と12月を除く毎月第3土曜日に定期有火運転し、一般に公開している。キャンパス内で運転中の様子を写真1に示します。

このほかに学園祭等のイベント時にも有火運転を行っていますので、運転予定日時等の詳細は、当博物館事務室に問い合わせ下さい。また、急な都合により運転内容・日時を変更させて頂く場合もあるので、ご容赦願います。

2109号蒸気機関車の近況

2109号蒸気機関車は、大井川鐵道株式会社にて平成5(1993)年にボイラーの煙管172本とステー管16本を交換して以来、大規模な補修作業を施さず無事に有火運転を実施してきた。14年間にわたる本学での運転の結果、煙管とステー管の腐食が進行したため、本年1月より約1か月の期間を費やして、これらの全ての部品(188点)の交換作業を施した。作業後は、労働基準監督署による変更検査を受け認可された。

今回実施した交換作業の一部の様子を、写真2～5に紹介する。



写真2



写真3

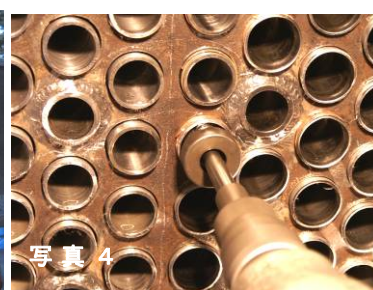


写真4



写真5

写真2 グラインダーを用いて煙管の溶接部分を切断する様子

写真3 煙管・ステー管を挿入する様子

写真4 管端を拡管して鏡板に固定している様子

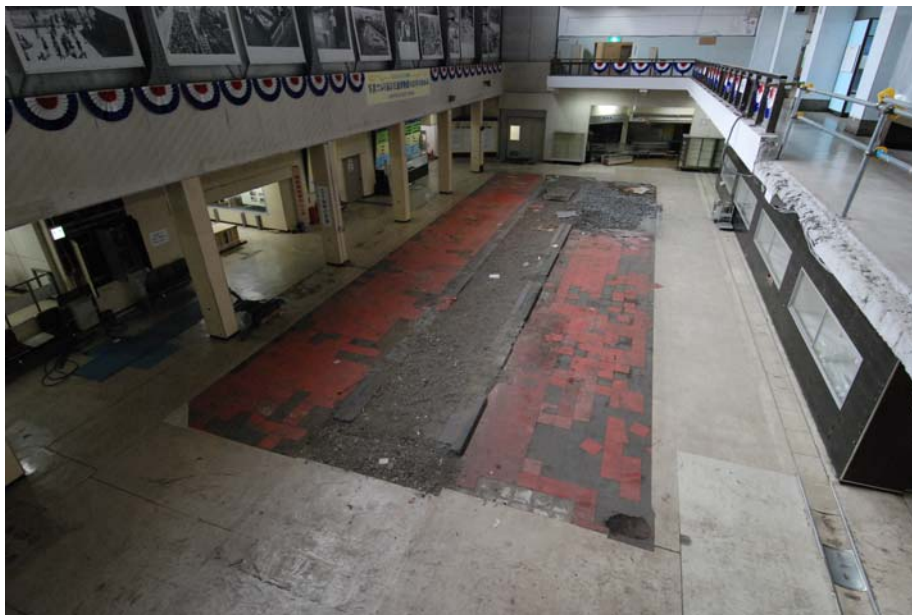
写真5 作業が終了し作業担当者との記念写真

交換作業後は、本年2月17日より従来通り、定期的な有火運転を実施して、さらに数多くの「2109号ファン」から暖かい声援を頂いている。

財団法人交通文化振興財団

101-0041 東京都千代田区神田須田町 1-25

電話 03 3251 8481 Fax 03 3251 8489



交通博物館近況



2006 年 5 月、交通博物館最後の盛況

C51 形蒸気機関車に代わって青梅鉄道公園に展示されたクモハ 40 形電車



交通博物館なきあとの活動について模索中。引き続きご支援のほどお願い申し上げます。

151-8578 渋谷区代々木 2-2-2 JR 東日本本社ビル 11 階

Tel 03 5334 0623 Fax 03 5334 0624

鉄道博物館開館のご挨拶



「鉄道博物館」は、JR東日本の創立20周年事業のメインプロジェクトとして、財団法人東日本鉄道文化財団が、さいたま市等のご協力をいただきながら、東京・神田にありました交通博物館を移転し、2007年10月14日（鉄道の日）のオープンに向けて建設を進めてまいりました。開館に至るまでの多くの方々のご尽力に改めて感謝申し上げます。

鉄道博物館の簡単な紹介をさせていただきますと、ヒストリーゾーン（歴史）では、各時代を代表する車両36両を展示しておりますが、更に車両が活躍した当時の情景を8場面再現し、より実感を高められるように工夫しました。この36車両の中には、今まで公開されなかった御料車も4両加わっております。ラーニングゾーン（学習）の設置につきましては、鉄道の原理仕組みや最新技術、システムを子供から大人まで体験しながら楽しく学べるように配慮されています。その他には、日本最大級の模型鉄道ジオラマや日本初のSLシミュレーターを設置。ミニ運転列車では

本格的な運転操作と信号保安システムを体験する事ができます。また、小さなお子様が安心して遊んで頂けるキッズスペースをはじめ、ミュージアムショップの充実など、幅広い年代層の方々に何度でも訪れたい、と思っただけのような親しみやすく、喜んでいただけるサービスを提供する博物館となることを目指しております。

皆様、ぜひお越しください、心よりお待ちしております。

鉄道博物館館長 関根 徹



プロムナード（玄関前）



メインエントランス



ラーニングゾーン 原理・仕組み展示



ジオラマ

客席側



インタープリター研修風景

団体名 財団法人 東武鉄道共助会

東武博物館

TOBU MUSEUM OF TRANSPORT & CULTURE

〒131-0032

東京都墨田区東向島4-28-16

TEL 03-3614-8811 FAX 03-3614-8814

URL : <http://www.tobu.co.jp/museum>

保存車両：明治31年ベヤーピーコック社（英国）製蒸気機関車2両、大正13年日本車輜（株）製木造2軸ボギー電動客車など、東武鉄道のさまざまなジャンルの車両9両を展示（部分保存を含む）

施設概要：鉄道について遊びながら学べる体験型博物館。車輪を回転させ汽笛を鳴らすSLショー、約120両の模型電車が走り東武鉄道の日を紹介するパノラマショーを見学できます。また、200インチの大画面を使用し、運転室を再現した大型シミュレータや模型電車の運転体験ができるコーナーのほか、ポイント切替やパンタグラフなどの機器を作動することもできます。さらに、高架下という立地を活かして、営業線を走る電車を間近に観察できるコーナーもあります。



団体名	財団法人 日本ナショナルトラスト	〒113-0024 東京都文京区西片二丁目 18 番 16 号 TEL : 03 (6303) 1110 FAX : 03 (3818) 1165
-----	---------------------	---



○2007年「トラストトレイン」運転日

4月14日・5月26日・6月23日・7月7日

8月25日・9月8日・10月6日・12月1日

いずれも土曜日に運転

* 8月25日は「SL保存親子ボランティア」を開催

〔区間〕 大井川鐵道 金谷―千頭間 (39.5km)

〔運賃〕 金谷―千頭 (片道 2,370 円・SL 急行料金含む)

〔保有車両の編成〕

スハフ 43 形 2・3 号客車、オハニ 36 形 7 号荷物合造客車

〔運行時間〕

金谷駅 11:48 発→千頭駅 13:12 着

千頭駅 15:23 発→新金谷駅 16:46 着

〔近況報告〕

平成 19 年 4 月 14 日～ 蒸気機関車の運転前の火入れ・油差しの手伝い等、客車の清掃、小修理等のボランティア、運転日にオリジナルヘッドマークを装着し、走行

6 月～ C12 形蒸気機関車のボイラー検査、オハニ 36 形 7 号荷物合造客車の車輪交換
客車 3 両の定期検査

8 月 25 日 第 8 回 SL 保存親子ボランティアを開催

*平成 18 年度は 4 月～12 月まで計 8 回の運転を行い、乗客数 1317 人、ボランティア参加数約 100 名、車内募金 238,011 円という結果だった。

○平成 18～19 年度のトラストトレインの運転

C12 形蒸気機関車に ATS が取り付けられていないため、平成 17 年度 4 月以降の運転日は、大井川鐵道の機関車が代走して客車 3 両を牽引し、トラストトレインとして運行を行っています。ATS 設置には多くの費用がかかるため平成 17 年 6 月より「ATS 取り付け募金」を開始しております。全国の皆様から、暖かいメッセージとともに募金が寄せられておりますが、現在目標額の 3 分の 1 となっております。

平成 18 年度は、スハフ 43 形客車 2 両の車輪のフランジ 70 度化削正工事を行い、オハニ 36 形客車は、新規の車輪を取り付けました。

平成 19 年度には、トラストトレインは運行 20 周年を迎えます。市民参加により動態保存されているこの貴重なトラストトレインを末永く維持管理するために、今後も皆様の温かいご支援をお願いいたします。



写真 トラストトレインのボランティア活動風景

■上松町 赤沢森林鉄道

〒399-5603

長野県木曽郡上松町駅前通り2-13 上松町役場内

TEL 0264(52)2001 FAX 0264(52)1038

<http://www.avis.ne.jp/~hinoki/>



紅葉シーズン 10月6日～11月4日

2007年、赤沢森林鉄道は 次の日程で運行されています。

■ 2007年度運行日程

4月28日～11月4日までの土曜・日曜・祝日運行
うち、下記の日程で連日運行があります。

GW 4月28日～5月6日

夏休み期間 7月21日～8月26日

- 運行時刻 土曜・日曜・祝日 9:30～15:30の30分毎に1便運行
※ 夏休み運行期間中は 9:00の便が追加されます。
※ 紅葉シーズンの平日は、10:00～15:00までの1時間毎に1便運行
- 乗車料金 (15名以上は団体・各100円割引)
大人700円 4歳～小学生400円
※ 夏期イベント期間(8月4日～19日)は、イベント参加料金となります。
大人 1200円 4歳～小学生900円
- 運行区間 森林鉄道記念館前～丸山渡停車駅 往復2.2kmを25分で運行

【2007年の記事】

今シーズンの夏期イベント期間は、天候にも恵まれたたくさんのお客様を乗せて順調に運行できました。静寂な森の中にこだまする森林鉄道の汽笛は、乗客の気持ちを高ぶらせるのか、1日に何回もご乗車する方もみえました。

また10月16日には、NHKBS ハイビジョンで、現在静態保存されている、ボールドウィンの映像が過去に動いていた時と現在と併せて放送されますので、ぜひご覧ください。



秋の紅葉シーズン、今年も森林鉄道は連日運行いたします。多くのお客様のご乗車をお待ちしています。

団体名	財団法人	〒410-2416
	伊豆市振興公社	静岡県伊豆市修善寺4279-3
	修善寺虹の郷	Tel 0558-72-7222 Fax0558-72-7133



NORTHERN ROCK II・CUMBRIA

保有車両

蒸気機関車 4両

ERNEST W TWINING	2-C-1	1949年製造
NORTHERN ROCK II	1-C-1	1989年製造
CUMBRIA	1-C-1	1992年製造
C-11 (金沢工業大学より貸与された)	1-C-2	1996年製造

ディーゼル機関車 2両

JOHN SOUTHLAND II	B-B	1888年製造
CITY OF BIRMINGHAM	O-C-O	1992年製造

客車

普通客車	(乗車定員 20名)	13両
オープン客車	(乗車定員 20名)	2両
車椅子用客車	(乗車定員 車椅子4台)	3両

軌道延長 本線 2,315M 引き込み線・待避線 700M

付帯設備 転車台 1基

建物 駅舎 2棟 機関庫 1棟

[近況報告]

2006年	9月	JOHN SOUTHLAND II ブレーキシリンダー交換
	12月	軸重計取り付け
	12月	SL体験教室実施
2007年	1月	JOHN SOUTHLAND II スペアタイヤ加工
	2月	軌道枕木交換・通り整正
	2月	動輪・従輪フェルト交換
	2月	ボイラー性能検査・安全弁調整
	3月4月	客車整備・ボギー点検(12両)
	5月	JOHN SOUTHLAND II 燃料噴射ノズル交換
	6月	No14客車全塗装
	7月	NORTHERN ROCK II 煙室修理
	7月	ロムニー鉄道運行方向変更(右廻り)
	8月	CITY OF BIRMINGHAM 油圧システムパイプ交換

ホームページ <http://www.njinosato.com/>

大井川鐵道株式会社

〒428-8503 静岡県島田市金谷 1112 番地の 2

TEL : 0547-45-4111 FAX : 0547-45-4115

1. C56 型蒸気機関車がタイ国鉄仕様で復活

平成 15 年 12 月より休車扱いとなっていた C56 型蒸気機関車は、本年、日タイ修好 120 周年にあたるため、タイ国鉄運行当時の姿に復元して、平成 19 年 10 月 7 日（日）より営業復活運転を開始した。



2. C11 型 312 号機蒸気機関車のさよなら運転の実施について

昭和 21 年製。昭和 49 年に国鉄引退後、三重県松阪市のドライブインに保存展示されていた SL で昭和 63 年 7 月より営業運転を開始後、19 年間、228,000 k m を走行し、その後、老朽化が進んだため、平成 19 年 9 月 8 日（土）をもって営業運転を終了した。今後は、静態保存（保存場所は未定）の予定。



団体名 東海旅客鉄道株式会社

〒450-8520 名古屋市中村区名駅一丁目3番4号
東海鉄道事業本部 車両部 管理課
Tel 052-564-2461 FAX 052-564-2462

佐久間レールパーク展示車両今年も修繕実施！

当社の飯田線中部天竜駅に隣接した「佐久間レールパーク」には、16両の車両を常設展示しております。5年前からは車内及び屋根周りの修繕を実施し、昨年度はクハ111-1、クハ165-1、ED11-2の3両について実施しました。また、今年度はスハ734-834、オロネ10-27、スニ30-95の3両について修繕実施、計画中です。

【クハ111-1】外板・屋根上及び外板全塗装・客室内修繕



修繕前



修繕後



【スハ734-834】外板塗装修繕



窓と水切りゴム修繕



修繕前



修繕後

デッキ板修繕



修繕計画中

【オロネ10-27】

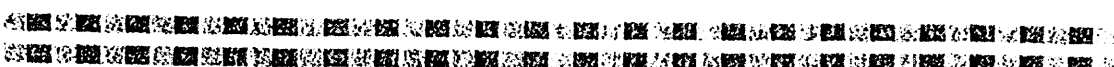


【スニ30-95】





石川 啄木



(財)交通文化振興財団 御中

平成19年9月12日



夏目 漱石

博物館明治村

〒484-0000 愛知県犬山市内山1番地
電話 0568-67-0314 FAX 0568-67-0358
[http:www.meijimura.com](http://www.meijimura.com)

担当 成瀬 渡辺

(財)日本ナショナルトラスト 日本鉄道保存協会会報原稿

《近況報告》

平成18年3月27日・29日・31日の3日間、小学生を対象に、SLの点火作業や点検作業を見学する春休み体験型キャンプ企画として、「蒸気機関車バックヤードツアーイベント」を開催。

平成19年7月28日・8月1日・3日・6日の4日間、小学生を対象に夏休み体験型キャンプ企画として、営業前のSL施設見学を実施。

以上

団体名	西日本旅客鉄道株式会社	〒530-8341 大阪市北区芝田 2-4-24 Tel 06-6375-8513
-----	-------------	---

○「交通科学博物館」を一部リニューアルしました

今年3月20日、交通科学博物館（大阪市港区）の第4室展示室をリニューアルしました。現在の展示室は、「鉄道の歴史・文化、技術・科学を人々に分かりやすく伝える」という運営理念の下、「鉄道のあゆみ」「鉄道の施設としごと」などをテーマにした7室構成としています。この度、第4室では、模型の列車を操作し運転の疑似体験ができる、参加型展示施設「安全に列車を走らせよう」をオープンしました。この展示施設では、「ひかりレールスター」「223系新快速」など、計4タイプの車両模型を操作し運転の疑似体験ができるようにしています。従来の運転体験システムをさらにグレードアップし、信号の指示を守って運転体験していただくなど、「安全運行のしくみ」を楽しみながら学習できます。また、模型列車の先頭部には、小型の車載カメラを搭載し、カメラの映像を見ながら「運転」することで、臨場感に満ちたリアリティあふれる運転体験ができます。

室内全体においても、明るい雰囲気イメージチェンジするとともに、車両模型などの既存の展示物についても展示台や説明書きをリニューアルし、より「見やすく」「分かりやすい」展示室としました。



○「0系新幹線」「230形233号タンク式蒸気機関車」が機械遺産に認定

今年7月、交通科学博物館の「東海道新幹線0系電車客車」と「230形233号タンク式蒸気機関車」が、日本機械学会から「機械遺産」として認定されました。



「0系新幹線電動客車」



「230形233号タンク式蒸気機関車」

鉄道文化遺産は、多くの先人たちが築き上げてきた「鉄道」の歴史を辿る上での貴重な足跡であり、末永く後世に引き継いでいくことは、より安全な鉄道を構築していく上でも、意義深いことであると考えています。その意味でも、交通科学博物館で保存展示されているこれらの車両が機械遺産の認定を受けたのは非常に名誉なことであり、今後とも鉄道文化遺産の維持管理および文化活動に取り組んでいきたいと考えています。

団体名



加悦SL広場

カヤ興産株式会社

〒629-2422 京都府与謝郡与謝野町字滝941-2

TEL 0772-42-3186 FAX 0772-43-0080

URL <http://www.kyt-net.ne.jp/kayashiroba/>



転回実演の様子



1261号蒸気機関車



車体止

- 加悦SL広場 リニューアルオープンより10周年を迎えました
- 平成18年11月「SL広場周年祭」 平成19年5月「初夏の加悦鉄道まつり」を開催
- 平成19年度「SL広場周年祭」開催予定 平成19年11月3日(土)～4日(日)

【修復関係】

- TMC100モーターカー修繕完了……………周年祭 鉄道教室で転回の実演
- 1261号蒸気機関車をはじめ、木製手漕式トロッキなど修繕を実施
- 京都市電N5号 修復中（外装全面を修復 平成19年度を目処に取組中）
- 4号蒸気機関車 修復中（外装・運転修復 〃 ）
- KD-4(カトーくん)ディーゼル機関車 動態化にむけ保存会の協力のもと修復中



KD-4(カトーくん)



4号蒸気機関車



京都市電N5号

団体名	特定非営利活動法人 加悦鐵道保存会	〒629-2422 京都府与謝郡与謝野町字滝941番地の2 加悦SL 広場内 電話 0725-20-3811 (森本方)
-----	-----------------------------	---



■最近の動き

平成18年の秋以降、NPO法人となって初めての対外行事として、10月22日に加悦町観光協会と共同で「ちりめん街道まるごとミュージアム」に出展参加しました。

この催しの際は旧加悦駅舎内での活動となります。

内容はNゲージ鉄道模型の公開運転、5インチ電動模型列車の体験乗車。そして写真家・神谷潔氏の「懐かしの加悦鉄道写真展」の3本でした。

Nゲージ鉄道模型の公開運転は、山や海、町並みなどの風景を備えた4m四方に展開するレイアウトの上に模型列車を運転し、会員の解説付きでご覧いただくものです。このレイアウトは昨年と同催事から公開すべく、会員が2年間をかけて製作したもので、臨場感溢れる風景が広がります。

今回は主に山陰・北陸方面で活躍する列車を中心に、1公開20分間の運転ダイヤを組みました。最新の列車だけでなく宮津線で活躍した蒸気列車も交えたため、お年寄りから小さな子供さんまで、世代を超えて列車への思い出や憧れ話が交わされた様子でした。なお、開催に合わせて西日本旅客鉄道様、北近畿タンゴ鉄道様、一般の鉄道愛好者の方から列車写真のご提供を受け、会場内の雰囲気を盛り上げることができました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

また駅舎敷地には5インチゲージの線路を敷設してバッテリー駆動による模型電車を運転し、子供さんを中心に体験乗車をお楽しみいただきました。車輛は残念ながら加悦鉄道を模したものではありませんでしたが、常に乗車待ちの列が出来る人気でした。将来は蒸気機関車の運行を、と目論んでいます……。せめて来年は加悦鉄道のキハを模して運行したいものです。

併催の写真展の作者・神谷潔氏は、歴史街道の広報写真やJR新幹線の車内誌などを担当する写真家として活躍されていますが、ご自身も古くからの鉄道愛好者です。これまで撮り溜めた加悦鉄道や宮津線の写真も数多く、本会がNPO法人に認証された記念として加悦鉄道の写真展開催を打診しましたところ快諾いただき、10月1日から旧加悦駅舎2階のギャラリーで公開しました。

この写真展は地元紙などでも報道されたため反響も大きく、連日大勢の方が訪れ、中には繰り返し来場される方もあり、しばし加悦鉄道の思い出話に花が咲きました。

11月3日・4日には加悦SL広場周年祭を開催しました。今回は通常の加悦鉄道列車再現運転に加えて、催しの直前に整備を終えて出場したラッセルモーターカーを使い、排雪翼の開閉やジャッキを使った転向などを実演して除雪車の役割を解説したほか、臨時的にC58形の汽笛を吹鳴して汽笛合図の意味などを解説することも試みました。それらは概して好評で、特に大掛かりな準備も不要なことから、今後も継続することでSL広場に展示される車輛・施設等の有効活用を図りたいと考えます。



■今後の予定

平成19年2月下旬には、加悦SL広場が現在地に移転して最初の蒸気機関車の入場修理が始まります。大正11(1922)年、川崎造船製造の4号機関車(元河東鉄道、国鉄1250形同型)です。どの程度まで手を入れるかはカヤ興産とも相談することですが、私たちにとって蒸機のイロハを学ぶ絶好の機会と捉え、全面的にお手伝いして参りたいと考えます。

また、来る5月の大型連休期間には恒例の「初夏の加悦鉄道まつり」を開催する他、NPO法人としての初めての通常総会を6月に予定しています。加えて地域団体や企業との共同企画による催しなども進めてまいります。それらは逐次、ホームページでご案内して参ります。「加悦鐵道保存会」で検索してください。



■連絡等

当面の間、郵便物等は次のところへお送りください。 〒595-0071 大阪府泉大津市助松町3-1-31-508 森本 寿 方
 なお、電子メールアドレスは tsubame@rapid.ocn.ne.jp です。

団体名	ふるさと鉄道保存協会	〒 606-0944 福岡県福岡市博多区博多駅東 3 丁目 11-12-201 株式会社ワンマイル内 TEL:092-414-5088
-----	------------	--



▲所有車両キハ605号(有田鉄道WG)

ふるさと鉄道保存協会は、全国各地の課題ごとに地域に根ざしたWG(Working Group)を組織し、会員が様々な活動を展開しています。事業資金は主に会員からの会費や寄付金で賄っていますが、市民ボランティアによる活動が主軸となっています。将来的には、より高い専門性を持った組織を作り、欧州型のボランティア組織で支える保存鉄道の実現を目指しています。

なお、2006年の総会で、理事長の改選を行い、協会創立以来の笹田昌宏が退任し、新たに手嶋康人が就任いたしました。以下に、各WGの近況をご報告いたします。

●蒲原鉄道WG リーダー／齋藤幸祐

1999年に廃止となった蒲原鉄道(新潟県)で車両の保存運動を展開し、加茂市のご理解を得て静態保存を実現しました。また、蒲原鉄道鉄道部から図面などの資料を譲り受け、未永い保存に取り組んでいます。今後はこれらの資料の整理を進めてゆきたいと考えています。

●鉄道郵便WG リーダー／中井健二

のと鉄道(石川県)能登中島駅構内で保存されている郵便車「オユ 10 形式」を所有し、塗装や腐食箇所の補修などの維持管理を行うと共に、春・秋には「鉄道郵便車フェスティバル」を開催しています。今秋のフェスティバルでは、鉄道郵便OBらが中心となり、上り急行「きたぐに」連結の郵便車、直江津→敦賀間の作業を実際に再現すると共に、お客様にも体験して頂きました。

●天竜二俣キハ20修復WG

リーダー／山崎義和

天竜浜名湖鉄道(静岡県)天竜二俣駅の隣接地で保存されている国鉄二俣線の気動車「キハ 20 形式」と、寝台車「ナハネ 20 形式」の修復を行っています。この活動には、地元・浜松市民の皆様をはじめ、一般の方々も多数参加しており、来る 11 月上旬には修復完成を記念したイベントを計画しています。(ポスター参照)



●ワフ30037伊賀WG リーダー／中盛汀

近鉄伊賀線の活性化に、近鉄・県・市・他団体と協働で取り組む「伊賀線協働塾」を開催しています。

●有田鉄道WG リーダー／橋野稔

2002 年 12 月 31 日をもって廃止となった和歌山県の有田鉄道旧金屋口駅構内で当協会が所有する保存車両の維持・管理を行っています。なお、先ごろ旧金屋口駅構内は有田川町の手で鉄道公園として整備されることが決まり、公園開設に向けて積極的に協力を行っています。

●ちゃりトロWG リーダー／亀井高行

九州を拠点に軌道自転車を使ったイベントを開催していきます。2005 年には平成筑豊鉄道のご協力を得て実験的なイベントを行いました。

●ヨ9001WG リーダー／三阪芳史

2002 年に福岡県田川郡赤村の自然学習村源じいの森へ車掌車「ヨ 9000 形式」を寄贈し、保守管理や一般公開などを行っています。今年度は、前回の全塗装から 5 年を経たため、腐食箇所の補修と全塗装を進めています。

団体名	中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会 (平成17年12月設立)
役員	会長 清岡 博基 (他 副会長4名 監事1名)
会員	26名(平成19年9月26日現在)
事務局	〒781-6201 高知県安芸郡馬路村馬路443 馬路村教育委員会内 TEL: 0887-44-2216 FAX: 0887-42-1010
活動の目的	高知県中芸地区に残る森林鉄道の遺産を保存及び活用する活動を通じて中芸の地域づくりを行い、地域社会の発展及び文化の向上に寄与することを目的とする。
活動の内容	(1) 森林鉄道遺産を国の重要文化財に登録する活動 (2) 森林鉄道遺産を利用した地域づくり活動 (3) 森林鉄道遺産の調査及び情報発信 (4) 講習会及び研修会の企画・開催 (5) ボランティアガイドの養成 (6) その他
財政規模	平成18年度決算額 1,505千円 平成19年度予算額 3,384千円

山口線 S L 運行対策協議会の活動状況について

当協議会では 3 月 1 8 日（土）からの運行開始に合わせ、2 0 0 6 S L やまぐち号出発式を開催しました。

今年度は S L やまぐち号 C 5 7 1 号機が製造 7 0 周年を迎えた年であり、3 月 2 1 日に開催されたスタートイベントでは、機関士さんへの花束贈呈やテープカットを行い、当協議会がデ

ザインを公募した 7 0 周年オリジナルヘッドマーク及びサイドマークを装着し走行させてもらいました。

また、「製造 7 0 周年記念誌」を作製し、観光客の方に広く P R するとともに、8 月 1 日に開催された S L やまぐち号の「復活 2 8 周年記念イベント」では、一日駅長と一日こども車掌を公募し、抽選された一日駅長に出発合図を、2 名のこども車掌に上下線に一人ずつ、車内改札等の車内業務を行っていただきました。

各沿線市町にも協力してもらい、8 月 4 日に阿東町、8 月 1 1 日に山口市、8 月 1 8 日に津

和野町に「沿線市町 P R デー」として、各自治体が思考を凝らしたイベントをしていただきました。特に阿東町 P R デーでは山口県立大学、山口市 P R デーでは山口大学の学生の方々に協力してもらい、大学の P R も同時に行うという試みを S L 車内で実施しました。

8 月 2 4 日は「S L やまぐち号講座」を実施。2 8 周年を記念し、2 8 人の受講者を公募、抽選し、J R 津和野駅において機関士の方を講師として S L やまぐち号を前に、S L の歴史や構造、機関士の仕事等を説明してもらいながら見学をしていただきました。

平成 2 0 年度においても、乗客の皆さんに喜んでいただけるよう、様々なイベントを企画していきたいと考えております。



団体名	九州旅客鉄道株式会社	連絡先（住所・電話等） 〒812-8566 福岡市博多区博多駅前 3-25-21 Tel 092-474-2541 Fax 092-474-3898
-----	------------	--

58654号機 平成21年復活へ、作業進行中



平成 19 年 5 月、報道陣を前にボイラー部と台枠の分離作業が行われた



【58654 号機の経歴】

大正 11 年 11 月	日立製作所で新製 浦上機関区配置
大正 15 年 2 月	若松機関区配置
昭和 43 年 6 月	人吉機関区配置
昭和 50 年 3 月	廃車 肥薩線矢岳駅横にある SL 保存館にて静態保存
昭和 63 年 8 月	「SL あそBOY」として復活
昭和 17 年 8 月	「SL あそBOY」運転終了
平成 21 年	運行予定

「SL あそBOY」として活躍したSL「58654」（ハチロク）の復活に向けた作業が、現在、JR九州小倉工場で進められています。作業に当たっているのは、工場社員、JR九州グループ会社、OBで構成する「SL 復活プロジェクト」のメンバー16人。OBには、なんとSLより年上の89歳の方も。作業は、傷みが激しい台枠を新製するほか、ボイラー、コンプレッサー、注水器などを改修します。解体作業を終え、ボイラーの加修などを行った後は、台車のメーカー発注に向けた準備に進みます。平成21年夏から肥薩線熊本～人吉間での運転開始を目指し、OBの指導の下、熱のこもった作業が繰り返されています。

九州鉄道記念館”関門トンネル65周年”企画展を開催

昭和 17 年 11 月 15 日全線開通した関門トンネルは今年 65 周年を迎えます。

関門鉄道トンネルの計画は明治 29 年にはすでに提案されていました。その後、トンネル案、架橋案などが出されましたが、架橋案は工事費も高く、また軍の反対もあってトンネル案が採用されました。大正 3 年には第 1 次世界大戦が勃発、13 年には関門鉄道トンネル建設中止。工事が再開されたのは、昭和 10 年のことで、翌 11 年 9 月 19 日門司側で起工式が行われました。昭和 17 年 6 月には 6 年間の難工事の末、単線が開通。それまで船で行き来をしていた、関門海峡は世界初の関門鉄道トンネルで結ばれました。今回、関門鉄道トンネルの工事の方法潜函、シールド、圧気工法など工事記録写真、関門トンネル開通による北九州門司、下関での駅、操車場、機関区などの移設、新設などの写真、開通記念の大相撲大会、また九州と本州を結んだ貨物列車や旅客列車、開通から現在までの機関車の変遷、関門鉄道トンネル開通、昭和 28 年、北九州大水害、関門鉄道トンネル水没、その復旧の記録などを写真や当時の資料、新聞記事などで紹介します。



九州鉄道記念館

北九州市門司区清滝 2-3-29（最寄駅：門司港駅）

TEL：093-322-1006/FAX：093-332-7233

ホームページ <http://www.k-rhm.jp>

団体名	鹿児島県 屋久町	〒 8 9 1 - 4 4 0 4 鹿児島県熊毛郡屋久町尾之間 1 5 7 屋久町役場企画調整課 Tel 0997-47-2111 FAX 0997 - 47 - 2117
-----	----------	---

【 屋久島林用鉄道 】・・・動く環境教育・・・

屋久島（安房）森林軌道は、歴史的に屋久島森林開発の軌跡であり、唯一国内に現存する林用鉄道です。

1923年（大正12年）の開設以来、屋久杉搬出の花形として、また、小杉谷・石塚集落に暮らす人々の生活の足としても活躍してきました。

現在は、利用頻度は減少したとはいえ、屋久島の産業史を知るうえからも文化的価値の高い地域資源です。

また、海岸部から標高1,000mまでに至るこの森林軌道は、標高差による植物の変化を理解するうえでも貴重なもので、特に荒川分岐点までの10km余りは、温帯の最も南にある屋久島の照葉樹林を知ることができます。

このように人と自然との関係や、屋久島の植生の特徴を理解するうえで、貴重な資源である軌道を後世まで動態保存して、このエリアを広義の『環境教育』の場としてとらえ『動く環境教室』の舞台として利活用できるよう、今後も事業を展開していくことにしていますが、人を乗せて運ぶためにクリアしなければならない問題も多々あり、なかなか先に進むことができない状況です。



※10月1日上屋久町と合併し、屋久島町が誕生いたします。